



**Japan Society for Tobacco Control**

**日本禁煙学会**

<http://www.nosmoke55.jp/> E-mail desk@nosmoke55.jp  
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201  
Tel 03-5360-8233 FAX 03-5360-6736

2014年3月13日

日本禁煙学会 理事長 作田 学

## 声明

# 国際条約違反のJTの「博物館・研究館」を閉鎖せよ

タバコ産業のCSR活動は、日本政府も批准したFCTCと言う国際条約で禁止されている。

2005年2月に発効している「タバコ規制枠組条約」(FCTC)の締約国会議の中でも、ガイドラインを定めて、タバコ会社のCSRについては、加盟国政府が責任をもってこれを規制・禁止するよう促している。

CSR (Corporate Social Responsibility) とは「企業の社会貢献活動」と訳され、本来は、企業が利益を追求するだけではなく、組織活動が社会に与える影響に責任を持ち、あらゆるステークホルダー (利害関係者、消費者、投資家、従業員、地域社会等) との関係性を重視しながら果たす社会的責任という意味である。しかしながら、多大な健康被害をもたらす商品を販売して膨大な利益を得るJT企業活動は、社会的責任と対極の行為に他ならない。

そこで、日本たばこ産業(株) (以下JT) が展開しているCSRについて検証してみたい。JTの行うCSRは、「JT本社が中心になって行う形態のもの」および「JTが資金を別団体に拠出、別団体が代理的に行うもの」の二つに分けられる。

前者については、①ひろえば街が好きになる運動②未成年者喫煙防止キャンペーン③ゴルフJTカップ④バレーボール⑤奨学金制度⑥いきいきフォーラム⑦JTの森⑧JT-NPO助成事業⑨たばこと塩の博物館/JT生命誌研究館⑩その他のCSRがある。一方、後者については、①アフィニス文化財団によるクラシック・コンサートの助成②将棋日本シリーズなどがある。

今回は、特に東京と大阪で展開しているCSRの一環として、「博物館」の問題について指摘し、早急にこれを閉鎖するよう求めるものである。

### 【たばこと塩の博物館】

この博物館、「塩」は全くの添え物で、タバコのポスターやタバコの歴史などを幅広く展示しており、「有害性」については全く触れていない。特に「タバコは文化である」という視点に立ち、積極的に都内・近県の小・中学校に働きかけ、夏休み、冬休みなどを利用し

て、学校単位で「見学」を呼びかけて、児童生徒に入館させるべく措置を講じている。

「文化を学ぶ」という建前を全面に出せば、喫煙への警戒心が薄らぐからである。

### 【J T生命誌研究館】

J T生命誌研究館は『「生きてるってどういうこと？」生きものを見つめ研究し、その過程や成果を表現することを通じて、自然・生命・人間について考える場（ホール）です』とうたっており、さらに『いのちを大切にする社会づくりに努める仲間にご参加ください』と呼びかけている。

このJ T生命誌研究館の館長・中村桂子氏は、テレビやラジオ、新聞などにたびたび登場し、「科学者」として発言を繰り返し、「いのち」や「環境問題」の重要性を力説しているが、タバコが多くの人々の生命・健康を侵している事実については、これまでただの一言も発言していないし、また発言できない立場であることはいうまでもない。

2005年2月に発効している「タバコ規制枠組条約」(FCTC) 締約国会議の中でも、ガイドラインを定めて、タバコ会社のCSRについては、加盟国政府が責任をもってこれを規制・禁止するよう定めているが、日本政府はこの問題について全くやる気を見せず、他の加盟国から厳しい批判の目にさらされていることを明記しておきたい。

従って、国際社会から課せられた条約上の義務を果たすために、「J T生命誌研究館」と「たばこと塩の博物館」は、一刻も早く閉鎖すべきである。